

[ミニシンポジウム 2002年10月13日]

英国における理学療法の歴史とその教育

リッキー マリス*、高木昭輝 **

キーワード： 教育、歴史、英国理学療法士協会 (CSP)

The History of Physiotherapy and P. T. Education in the United Kingdom

Ricky Mullis (Trial Coordinator), Akiteru Takagi, Ph. D.

Abstract

Physiotherapy(PT) has a long and distinguished history in the United Kingdom. This article charts the development and independent clinical practice of today. The progress of PT education from teaching hospital into the university environment is described. To conclude, some concerns for the future of PT and education are discussed.

key word : Education, History, Chartered Society of Physiotherapy

英国(UK)ではPhysical Therapyとは言わないで、Physiotherapyと言う。また、Physioと略されることもある。一般的にPhysical Therapyと呼ばれたりPTと略されるようである。私は本文で両方の語を用いるが、それは二つとも同じ意味だからである。

同様に私は the United KingdomとかUKと書く。The UKはイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドを含んでいるのである。このUKではひとつの国家的なヘルスケアのシステムが後述するようにすべての国民を治療するために構築されている。

英国では長い理学療法(physiotherapy)の歴史がある。それはヴィクトリア女王統治下の前世紀後半に始まる。この頃、マッサージがいろいろな疾患、たとえばリウマチ、

神経痛、関節炎、また肥満にさえも行われた。首都ロンドンではマッサージは評判が悪かった。当時マッサージと呼ばれて多くのサービスに関したが、医療には程遠く、「個人的なサービス」の名前で終わった。そこで1894年、4人の若い看護師が良いマッサージの名前にかけて、そのような事態に抗議することを決めた。彼女達は業種的な組織「正しく教育を受けたマッサージ師協会」を設立した。

1900年まで、その協会は急速に法的に認められる組織となり、1914年には構成員は959名となった。間もなく、それはジョージ王のときに公に認められた。王からの保証が与えられ、「マッサージと医療体操協会」として社会に認められた。このとき初めて男性がその協会に参加した。そのときまでは女性だけが協会の会員であった。

*Ricky Mullis : Keele University, Staffordshire, ST5 5BG, United Kingdom <http://www.keele.ac.uk/>

**Akiteru Takagi : Niigata University of Health and Welfare, Department of Physical Therapy
1398 Shimami-cho, Niigata 950-3198, Japan

その協会はそれから1930年代まで隆盛を誇った。多くの人々がマッサージと医療体操の恩恵に預かったように思ったが、病気の人たちではなかった。一部の会員の人たちはさまざまな産業において、健康を考える職業としてのPTのことを考え始めた。その頃多くの治療法が地域で行われた。そのような療法は慎重に健康を考慮しているものではなかったし、人々には高額な医療費が必要な病院に行くことができるほどにゆとりが無かったからである。またマッサージはスポーツ障害にも利用され、PTはアマチュアとプロフェッショナルなスポーツチームの両方で働いた。

次の10年に協会は一層大きくなった。1945年までに会員は15000名余となった。引き続き女性が多い職場で、男性はわずかに7%であった。この間にさまざまな治療法が開発された。当時協会はもっとPTの仕事を象徴するような象徴できるイメージを望んでいた。それで、今日、今なお英国のPTが採用しているthe Chartered Society of Physiotherapy またはC S Pという名前を誕生させた。

次の20年は殆ど変化はなかった。会員数は増えていった。1976年になって協会は労働組合として給与の交渉や労働条件の交渉を行うことができることが認められた。1977年には英国の厚生省は、理学療法士に専門職業としての自律権を認めた。これは理学療法士は医師の処方が必要とせず理学療法を行うことができるということである。理学療法士は自分の治療方法を自由に選択することができるようになったということである。

1986年には理学療法を学ぶ学生も会員となることができるようになった。その結果、学生には教会の中にある評議会に2つの議席が与えられ、学生の声が反映され協会運営もさらに発展した。1994年には病院内の

PTヘルパーとアシスタントが協会の準会員として認められた。

今日、協会は26000名を超えている。メンバーの中には臨床で働くPT、管理者、研究者、学生、アシスタントが含まれている。英国ではおよそ1000名のPT教育者と研究者がいる。開業PTは3000名を超えている。しかし、殆どのPTは公共の医療・保健サービスの機関で働いている。以上が英国でのヘルス ケア システムの簡単な説明である。

ナショナルヘルス サービス (NHS) は1948年に設けられた。この新しいサービスはひとつの行政機関として、すべてのヘルス ケアについてイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドに適用される。このヘルス ケアは、あの「揺り籠から墓場まで」が保障されることを意味する。そこに必要な経費は中央政府の税で賄われる。英国で病気になれば、外国人であっても、すべての人が治療を受けることができる。治療費は必要でないの、人は「無料ヘルス ケア」と呼んでいる。しかし、当然のこととして全ての国民は自身が高い税を支払っている。考えなければならぬ言葉は「何もしないなら経費はかからない」ということである。

過去の50年間にこのNHSは大きな変化があった。今なお、すべての人にこのヘルス ケアは保障されている。全政府予算の17%がこのヘルス ケアに使われている。この金額は過去5年間に350億ポンドから720億ポンドと2倍に増加している。それでも、必要なことの全てのことに対応するには十分ではない。毎年、高度な技術、新しい薬は経費を高くしている。人々は長寿となり、加齢に伴いヘルス ケアにはさらに経費が必要となる。NHSの中でも救急医療体制は依然として大変良い状態である。もし事故にあってしまった場合でも、救急車は

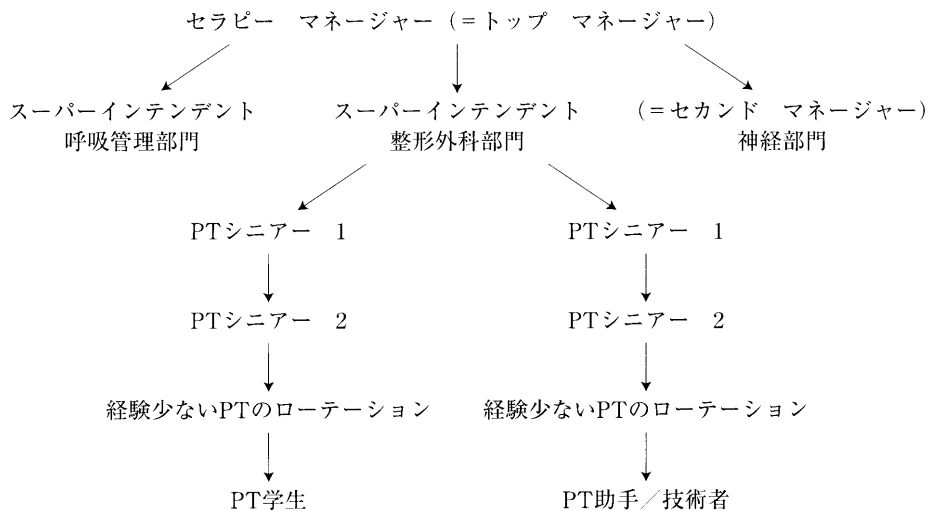
8分以内に病院へ運んでくれるし、無料である。そうではない、緊急を必要としない場合には、長く待たなければならないのが現状である。股関節全置換術を例にすると、手術までに2年間待たなければならない。今では、少しずつ短くなっているが、政府の目標では2005年までには6ヶ月待てばよいようにする予定である。

一部では民間病院もできているが、殆どの病院はNHSに所属し続けている。最も大きな変化が起こった。それはコミュニティーケアでのヘルスケアをさらに充実させ、病院でのヘルスケアを減らしたことである。地位住民を援助するために、全ての病院と一般臨床医には予算が与えられ、どこにヘルスケア予算を使ってよいか選択することができる。一部の人は、このことを良いことだといっているが、医師にとっては自分のお金を管理するのと患者をケアする両者の時間を区別するのが大変な様である。

仮にPTがNHSで働く場合には、PTは医療関係者委員会 (Health Professions Council) に登録する必要がある。この委員会はPTがきちんとした良い標準的な治療ができるように努力する責任を負っている。そこでは多くのほかの職種 (PT, OT, 歯科医、放射線技師など日本にあるような職種) がそのように監視している。英国では他に、カイロポデスト、オルソプチスト、アートセラピーなどの職種がある。それぞれ独自性を持っていて、英国のヘルスケアで重要な役割を担っている。

ここでは、英国のNHS病院で働くPTサービスの構造を説明する。表1参照のこと。これは、あくまで一例に過ぎない。特殊な病院では別の組織図が用いられている。

表1 典型的な英国 NHS 病院での理学療法士が働く管理組織



PT部門には一人管理担当のマネージャーがいる。全てのPTはその管理に従って働く。通常一つの病院には3つのPT部門があり、呼吸部門、整形外科部門、神経系

部門である。それぞれの部門は同じ組織構造であり、通常の一例を説明する。PTの二番目のマネージャーがそれぞれの部門を管理する。そこには2~3人の経験豊かな

シニア 1 の P T がいる。新人 P T は各部門を 4 ヶ月ローテーションする。それで新人はいろいろな場面を経験することができる。新人 P T はシニア 2 になるために 2 ～ 3 年実戦経験を積む。さらに 2 ～ 3 年経験を積むとシニア 1 になることができる。各部門にはアシスタントやシニア P T から臨床実習指導を受ける学生がいる。これが今日の病院における P T が働いている組織図の一例である。P T は英国のヘルスケアで欠くべからざる部分を担っている。これが公的に認められた P T だけが N H S で働くことができるという大変に重要なことを意味している。それは公的に認められた P T として認定されることと協会に加入することである。学生は P T 協会や医療職種委員会 (Health Professions Council) で適切であると認められたカリキュラムやコースで実習を受けなければならない。

英国の P T の教育などの歴史は 1890 年に遡る。前述したように、マッサージと治療体操が P T の元になっている。医師は一般にこのように言っている。その頃、病院でそれらを学んだのは殆どが看護師であった。多くの市町村で行われたが、中心はロンドンであった。一部のコースは 2 週間ほどの短いものであった。他には 6 週間コースもあった。マッサージ協会ができ、新しいメンバーが増えるに従い、技術試験が必要となった。これが、実に英国で最初の P T 試験と言える。100 年前に電気療法がこの試験に含まれていた。

1900 年の初めの頃、マッサージの養成校がロンドンに設立された。マッサージはさまざまな状態 (リウマチ、関節炎、神経痛、骨折などにも) に行われた。養成校の学生は学んだマッサージの技術を実習で実践するべくロンドンにあるランベス (Lambeth) 病院で実習を行った。これがおそらく英国

における最初の臨床実習であったと思われる。

1919 年に最初の国家試験が行われた。それは理論と実技の療法であった。試験は生理学、マッサージ、医療体操、骨折と包帯交換技術、電気療法などであった。お分りのように、これらの多くは今でも同じように試験されている。

次の絵 (図 1) は 1917 年のもので、治療技術の未熟な段階のものである。ひとたび患者が器機に安全に取り付けられた後は、患者は自動運動か他動運動が行われた。これはガスリー・スミスの機械と呼ばれた。

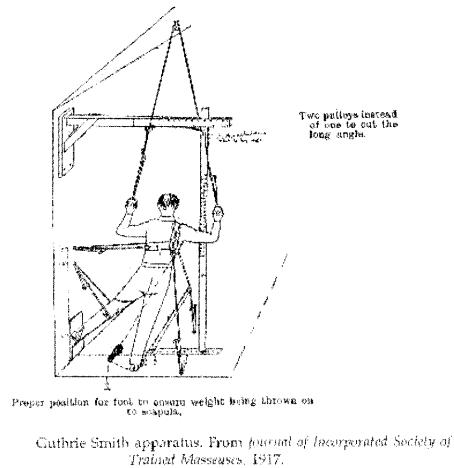


図 1

1930 年頃、P T 学生の教育コースの期間は長くなった。標準的なものは 48 週から 70 週にわたるものであった。当時、水を使った治療法 (hydrology exercise) は国家試験に含まれていた。今日、水治療法 (hydrotherapy) と言っているものである。このころ、短電磁波療法が治療法に含まれてきた。

1940 年代には、P T の養成コースは 2 年半になった。その頃には養成校は 30 校となった。すべての私立の養成校は N H S (National Health Service) に組み込まれた。

1947年には養成は3年制になった。PTの国家試験の実技試験ではマッサージ、電気療法、医療体操の3種が行われた。

スポーツができて、日常の生活を積極的に生きることが長期に能力障害を抱える患者にとって重要な事柄である。次の写真(図2)は1952年に脊髄損傷の患者のりハビリテーション スポーツの一例である。



Wheelchair netball at the fifth annual and first international inter-spinal unit sports festival (Stoke Mandeville Games) 1952.

図2

1950年代では毎年、およそ700名の理学療法を学ぶようになった。当然、養成校でPT教員が足りなくなった。そこで2年間、新しくPT教員の養成が始まった。さらに新しい教員養成コースが作られた。多くの学生が会員として登録され、1960年代では950名の学生が35の養成校で養成されるまでになった。

1972年はPT養成にとって危機といわれる年であった。それは30%の学生がライセンスを取得できなかったのである。このような事態を二度と起こさないために、養成校の入学水準を引き上げ、最良の学生が入学できるようにした。このような理由でPTはPTは大変に人気の高い職業となった。殆どの学生は女性で、当時男女比は1:20であった。

この頃まではPT養成校は大学には無く、病院に設立されていた。免許取得後、ある

優秀な学生が学士号を取得した。それは科学学士ほどに良い学士号ではなかったけれども、それ以来、PTは社会的に高いステータスを希望するようになり、1976年にはPTのために科学学士号を与える大学が北アイルランドにできた。次の15年には病院の中の養成校は大学へと移っていった。1992年までには、すべてのPT養成校は大学に在るようになり、PTの学生は科学学士となることができるようになった。英国理学療法士協会の学生の会員は勉強したいすべての人にそれが認められた。PTはさらに人気が高くなり、1150人の枠に30000人が希望するような状態である。

今日ではPTの学生は多彩な勉強を行っている。30の大学がPTのコースを開設することを、協会から認められている。殆どが4年制のフルタイムの学士号コースであるが、3年制や4年制パートタイム制のものも継続している。「fast-track」と呼ばれる2年間の科学修士もできている。さらに、パートタイムコースもいろいろできている。PTアシスタントや関連のヘルスケアに関して働く労働者にも勉強の道は開かれている。さらに、殆どの大学が臨床のPTのための卒後教育のコースを設けている。それらは、往々にして、特別の一分野を教えるコース、たとえば疼痛のマネジメントとか筋骨格系のマニピュレーションなどである。表1を参照されたい。

英国PT協会(CSP)は全てのPT教育プログラムに責任を持っている。協会は学生と教員の比率が12:1以上にならないように求めている。もし、教員対学生が1:15などの比率になると、教育プログラムの修正を求める。特別な場合には、協会はそのプログラムを中止させる権限を持っている。このようにしないと英国ではPTの資格は与えられない。実習場面でも、一人の教員は

一度に12人以上の学生は担当しない。12人の学生は24人の模擬患者（モデル）を担当できる。この事は教育現場で学生の安全管理を考える上で重要である。

表2 英国の各種教育コース、2002年

24	科学学士	3年制フルタイム
4	科学学士	4年制フルタイム
6	科学学士	4年制パートタイム
6	科学修士	2年制フルタイム

これらのコースが利用可能であっても、P Tの養成校に入ることは難しい。高い水準の学生が求められている。P Tは大学でもっとも人気のあるコースであり、ひとつの養成校には15人が希望する。今でも女子学生が多く学んでおり、男女比は1：3である。

公認されたP Tとなるために、学生は1000時間の患者との臨床実習を経験しなければならない。方法は大学によって異なるようであるが、4つの重要な分野は体験しなければならない。それは整形外科系、神経系、呼吸循環器系、コミュニティーケアである。実習は毎年行われる。典型的な例では一年生の学生は一年間で100時間の臨床実習を行う。2年生では多くなり300時間となる。その際は、2つの専門分野を体験しなければならない。経験をつんで3年生になれば殆どが臨床実習となり、600時間で3つの専門分野を体験する。この課題は一年の半分以上にわたり、学位取得に重点が置かれる。

それぞれの臨床実習は経験豊富な臨床実習指導者が担当する。このP Tは業務として学生の能力評価を判断することができる。各実習期間中に、学生は大学から少なくとも2回の視察を受ける。それで学生は養成校の教員からアドバイスを受れたり、知識や技術をテストされる。現在P T養成教育

は大きな問題を抱えている。それはすべての学生に十分な実習地を確保できないことである。したがって、ある実習施設では一人のP Tが2～3人の実習生を教育している。

これまで学んできたように、P Tは長い歴史があり英国でのヘルスケアの重要な部分を担っている。しかし、全てが良いわけではない。いくつかの問題を抱えており、われわれの目の前に立ちはだかっている。英国では、National Health ServiceにもP Tがいないところがある。8%が空白である。現在、政府はこれを解決するためにもっと多くのP T学生の養成を希望している。2004年までに6500名以上のP Tを教育しなければならない。しかし、新しく修士を取得したP Tは一年くらい働いた後、このNational Health Serviceから去っていく傾向にある。米国やオーストラリア、その他の国々に旅立っていく。新人P Tはこれ以上ヘルスケアで働くことを選択しなくなってきて、他の経歴を積んで、高い給与を望むようになってきている。英国では、このような現象を克服してゆかなければならない。これが英国P Tの大きな問題である。

また、すべてのP Tの教育が大学で行われるようになってきたので、科学学士取得のコースを維持するのにも大きな問題が出ている（表2）。大学は3年生に小さな研究論文を課するようになってきている。病院での実習では、逆に臨床的な技術をいっそう積み重ねるべきであると主張している。3年間にこの両方を達成することは、教員にとっても学生にとっても、大変に難しいことである。

P Tは他の職種よりなさねばならない課題が多い。現在、P T協会だけがNHSの病院で働いている。しかし、開業の場では

オステオパス (osteopath) やカイロプラクターなどがある。PTは自分たちの仕事のために厳しく働かなければならない。病院でPT学士の教育があり、また、修士の教育も始まっている。心臓や呼吸リハビリテーションの場で指導できるPTがいない病院も一部には存在するのが実情である。PTはリハビリテーションの分野で自分自身の職業を守るために戦わなければならない。

文献

- 1) Barclay, J (ed). In Good Hands : History of the Chartered Society of Physiotherapy 1894 - 1994. Oxford Butterworth Heinemann. 1994.
- 2) Chartered Society of Physiotherapy : Published Information Documents, 2002.